



二人比丘尼物語圖會

全

^ 13  
2879



13  
2879

八波  
986

天保辛丑冬

一休和尚話

神田後藤町壹丁目拾番地  
三河屋幸三郎

# 二天比賣物語圖會

大觀老和上序

書林  
尚書堂藏

尚書堂藏

天保辛丑冬

尚書堂藏

法橋の利りもくく書別べつ辭り若く紙

情じやう紙しのの倉くらくく生せい死し乃の年ねん常じやうをを免めん

もも亦またふふををりりををりりのの後のちももあありり

過た年ねん基もと堂どうとといいええ尚じやう書しよ林りん何なにりり

いづれかみのむらさきおろり

羽る童男どうなん童女どうにょはらりゆく一冊ちやう

ももなれりしと多一編編の仲六

絵ゑを海へくまき梓あざきりちりちり

云ろく世よおしなゆえんとくもの春はる

くまき志川庵一依よりしむら

まを綴つづりしと多たく

時ふ

天保十二年丑のしつし仲秋中

の七日

止性

至善



何日忘處志袖

大觀後復

*Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page.*

註

け書らむ別離者の理とさす一やたすく  
二人といえりし四の  
比丘有三義怖魔破  
忍乞士出家將斷生死  
非於魔之魔魔性而  
名怖魔又出家破乃  
七支之無有云破忍乞士  
謂上於法佛之法下於  
衆生之入也  
去の介經典より  
釈ありしは唯此の  
やんがらふものと比

ス尼と云ふ女とあけ  
よのこゝろなればは  
小八歳の姙女も成ん  
あつはス尼の居しとあり又  
いふはあつはス尼といふ  
あつはス尼といふ女とあけ  
やんがらふものと比  
半の同族と云ふ  
あつはス尼といふ女とあけ  
いふはス尼といふ女とあけ  
あつはス尼といふ女とあけ  
いふはス尼といふ女とあけ

二人比丘尼物語

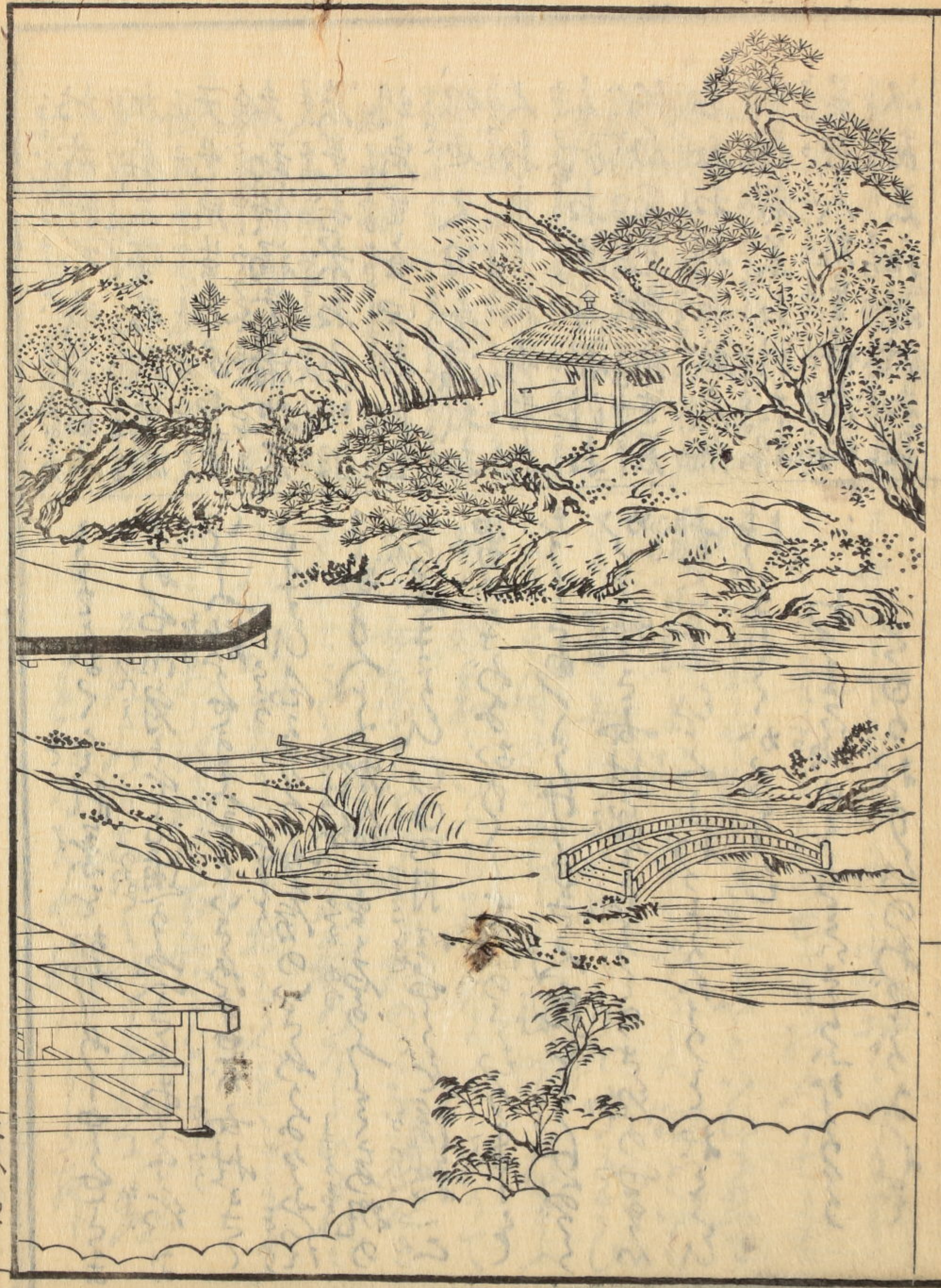
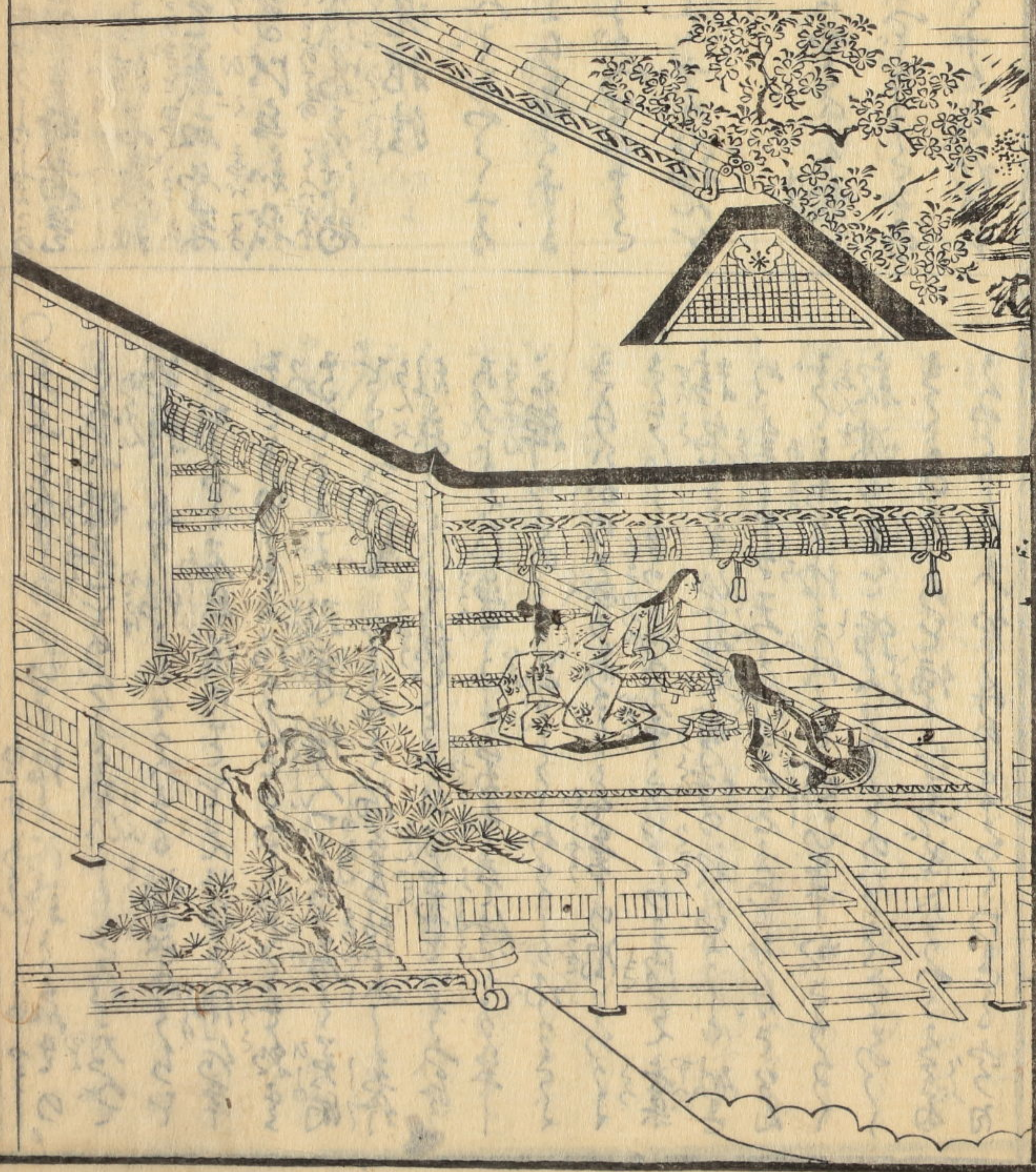
来り少時と云ふ有為轉  
れ任家生風とけやあらふ  
ちてふと云ふいふ  
うのわのこは後悔と云ふ  
んつと云ふも云ふ  
なんつと云ふ北窓の  
淋も多しと云ふ  
東窓の  
ういかなと云ふ幻化  
つる言持の  
任人  
歳

殊と云ふ妻女十七歳  
いせひあひの  
二七日又七日と云ふ  
女を年れ  
あつはス尼といふ女とあけ  
いふはス尼といふ女とあけ  
あつはス尼といふ女とあけ  
いふはス尼といふ女とあけ  
あつはス尼といふ女とあけ  
いふはス尼といふ女とあけ





中務の  
やうに  
の  
か  
あ  
と  
れ  
の  
か  
り  
の  
か  
り









とらふがどし  
らうぐんもまこと後  
なうらうぐんも今  
あうらうの十  
作意も不恒あるを  
心のころらう  
ほしけもせむふあけ  
えゆがひもむじつ  
なうらうもうらう  
くまがまきしし  
とらうもなうらう  
のむじつもむじつ  
あうらう  
のむじつもむじつ

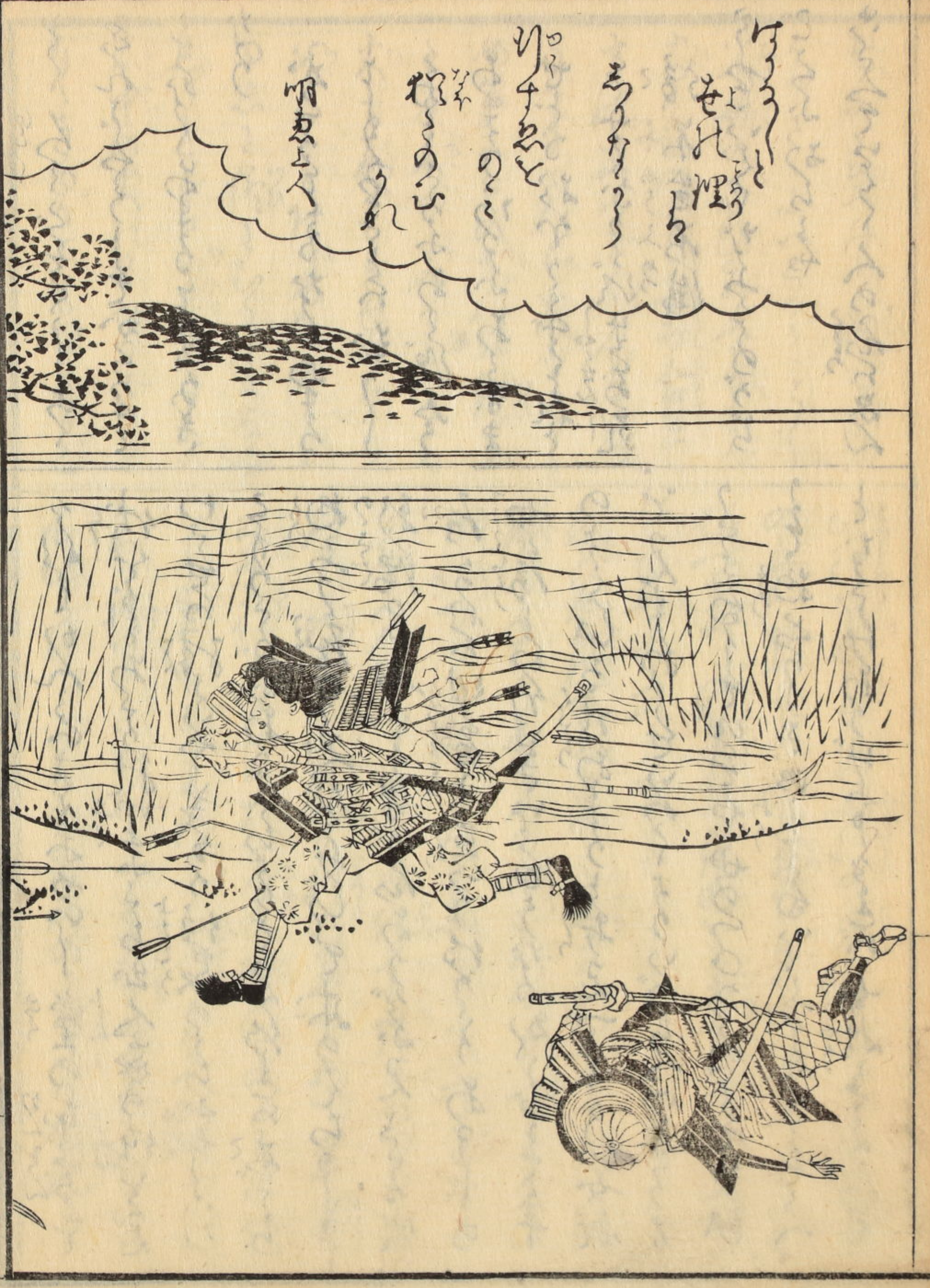
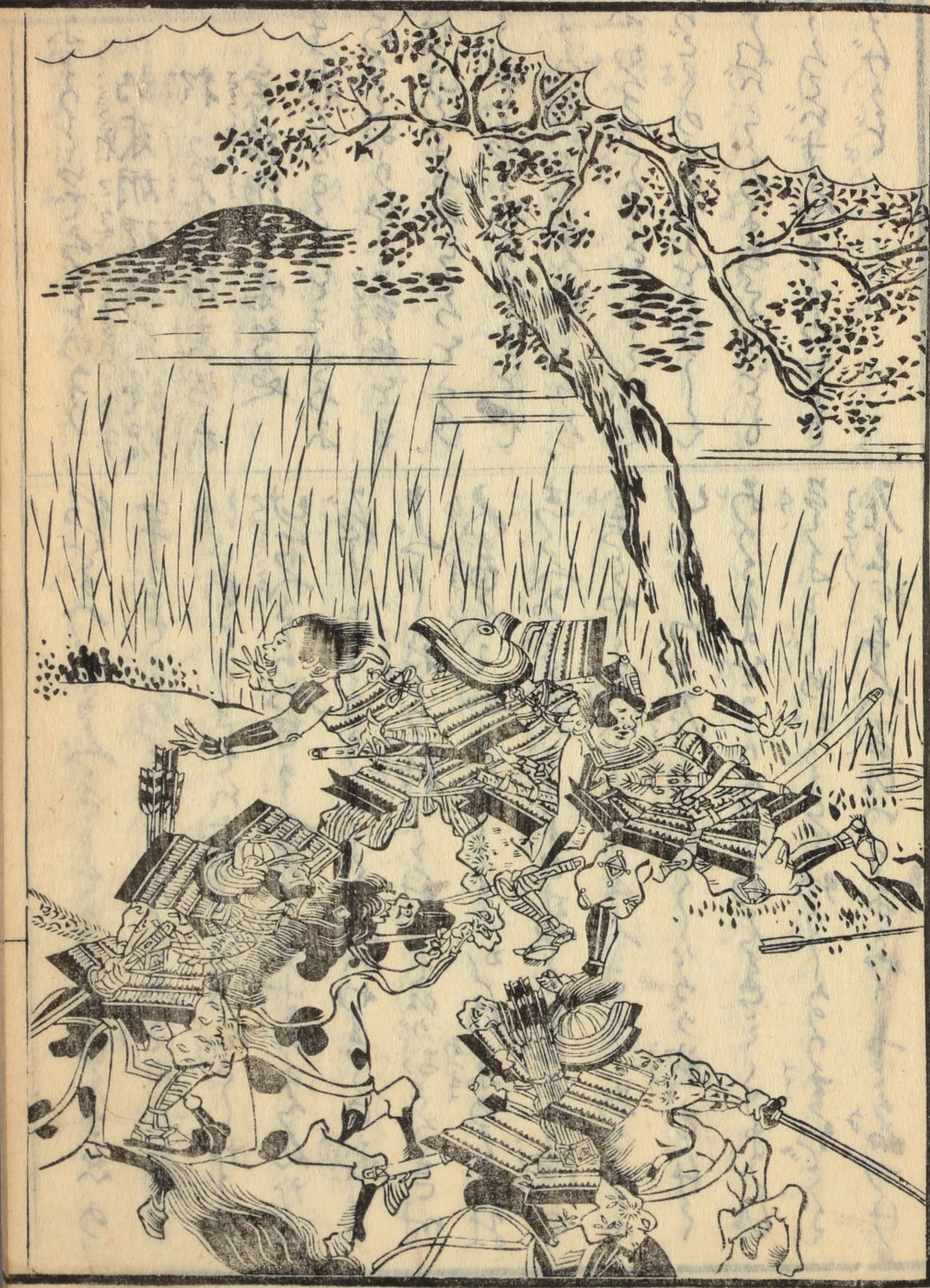
とらふがどし  
作意も不恒あるを  
心のころらう  
ほしけもせむふあけ  
えゆがひもむじつ  
なうらうもうらう  
くまがまきしし  
とらうもなうらう  
のむじつもむじつ  
あうらう  
のむじつもむじつ

とらふがどし  
らうぐんもまこと後  
なうらうぐんも今  
あうらうの十  
作意も不恒あるを  
心のころらう  
ほしけもせむふあけ  
えゆがひもむじつ  
なうらうもうらう  
くまがまきしし  
とらうもなうらう  
のむじつもむじつ  
あうらう  
のむじつもむじつ

とらふがどし  
作意も不恒あるを  
心のころらう  
ほしけもせむふあけ  
えゆがひもむじつ  
なうらうもうらう  
くまがまきしし  
とらうもなうらう  
のむじつもむじつ  
あうらう  
のむじつもむじつ













同日物家ちんちんすりか  
年をうそや。そを曰えし  
かどの事かままであなま  
髪をとりぬとあこあこ  
神々さうわめりうぐさ  
うぐさ人のつらうさ  
さそすべし口めく  
仏の念食為念食  
後食為念食  
此の傍でさうすうや  
えんちんちんすりか  
とまじう所のほしとあり又  
お家も後とよのちやと  
らあけしむとつこのんと

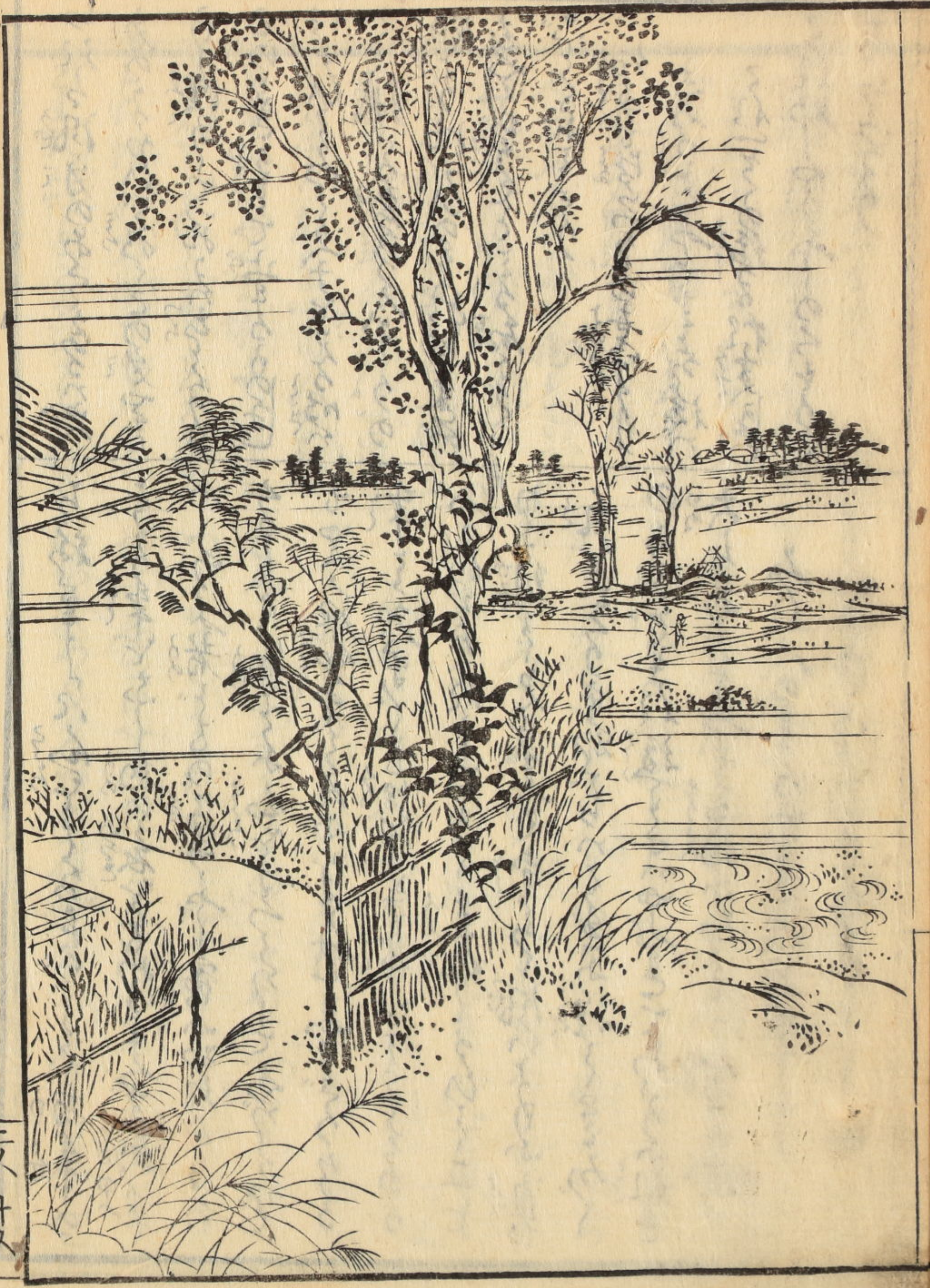
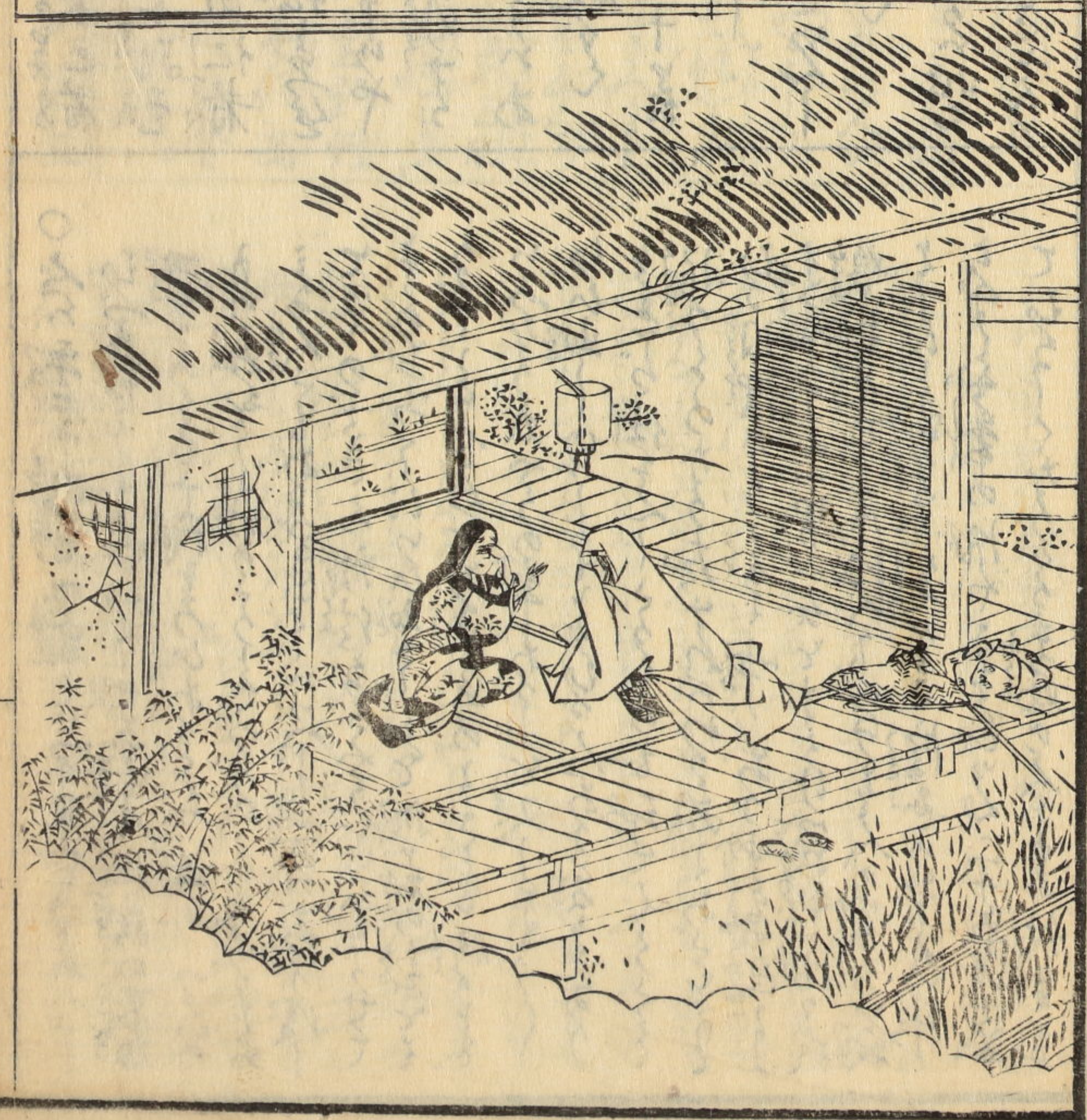
あつてふくま年もむり二月の  
うりやぶとむいらる徳ありあ  
女房風のららとあこさうさ  
とらへよつ孫れかんでさ  
りも中しとさななりさ  
かげらふうあまきさ  
うり果のうらうらとさ  
あつてふくまのすれな  
うらうらとあまきさ  
あまきさうらうらと  
えんちんちんすりか  
やしのすえんちんちんすりか  
えんちんちんすりか  
えんちんちんすりか

すり傍と此の地ぐさ  
アアアがたてい  
此の地ぐさ  
えんちんちんすりか  
とまじう所のほしとあり又  
お家も後とよのちやと  
らあけしむとつこのんと

えんちんちんすりか  
とまじう所のほしとあり又  
お家も後とよのちやと  
らあけしむとつこのんと  
えんちんちんすりか  
とまじう所のほしとあり又  
お家も後とよのちやと  
らあけしむとつこのんと



かきつばた  
うらたけ  
わさけ  
とこ  
けり  
やま







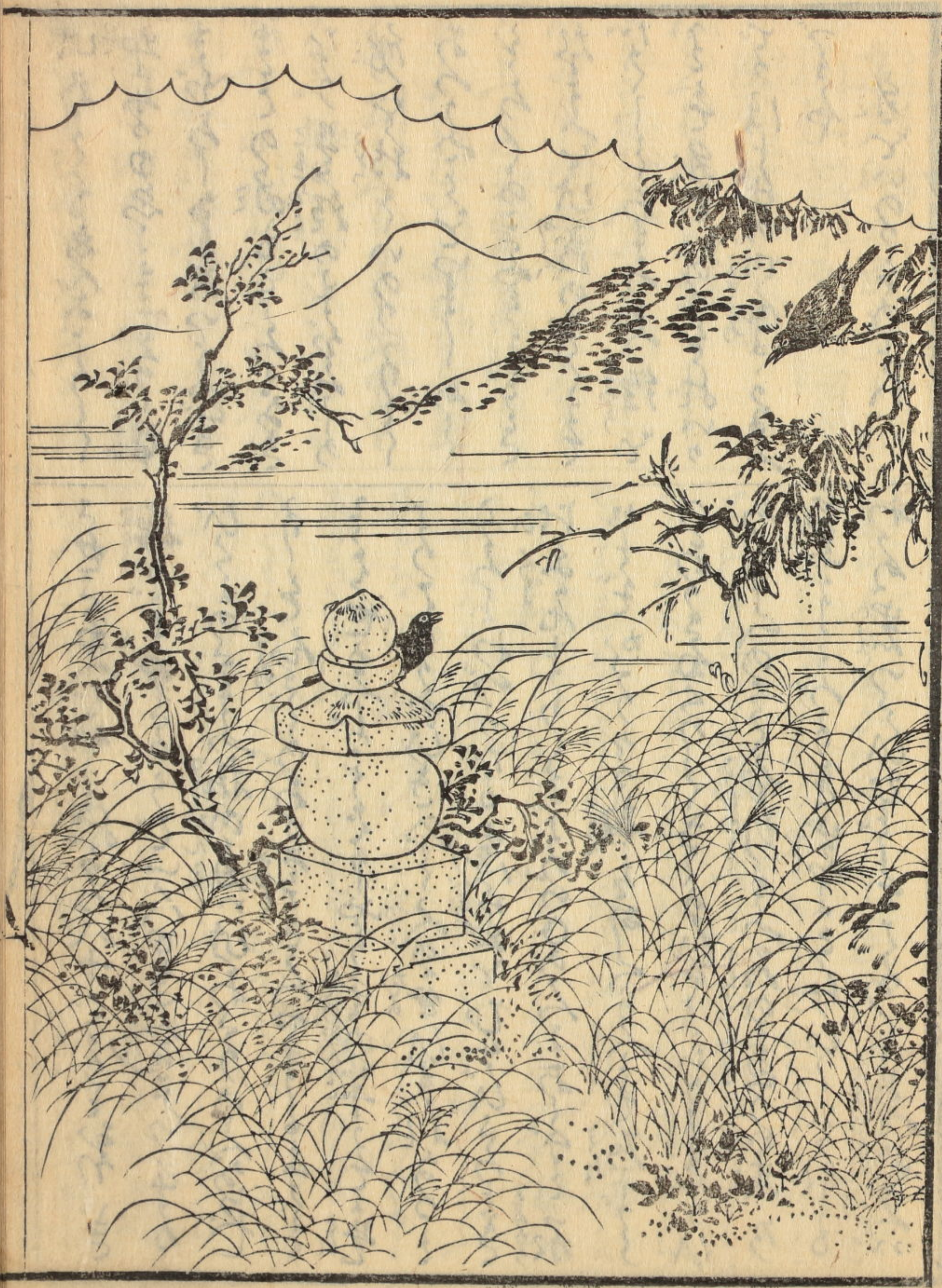
色にけきんげんどの向  
 枕のうらまへ一切のさか  
 さらあつものちかみん  
 ぶんよかすなう一さいの  
 ころかさらさこのの迷ひ  
 の正念よりせしめまはさふ  
 あつものよあつと悟候  
 なるものなるなりこの  
 人との理とまはさ  
 ころんふしひとまはさ  
 せしめたる縁より  
 ねる念よりまはさ  
 あつものちかみん  
 一さいのまかみん

とうとういひまひのま  
 念とねまへとせんひ  
 ころんふしひとまはさ  
 せしめたる縁より  
 ねる念よりまはさ  
 あつものちかみん  
 一さいのまかみん

とうとういひまひのま  
 念とねまへとせんひ  
 ころんふしひとまはさ  
 せしめたる縁より  
 ねる念よりまはさ  
 あつものちかみん  
 一さいのまかみん

とうとういひまひのま  
 念とねまへとせんひ  
 ころんふしひとまはさ  
 せしめたる縁より  
 ねる念よりまはさ  
 あつものちかみん  
 一さいのまかみん





いづれと  
清く人  
なげき  
はるけ  
のふ  
ま  
お  
お



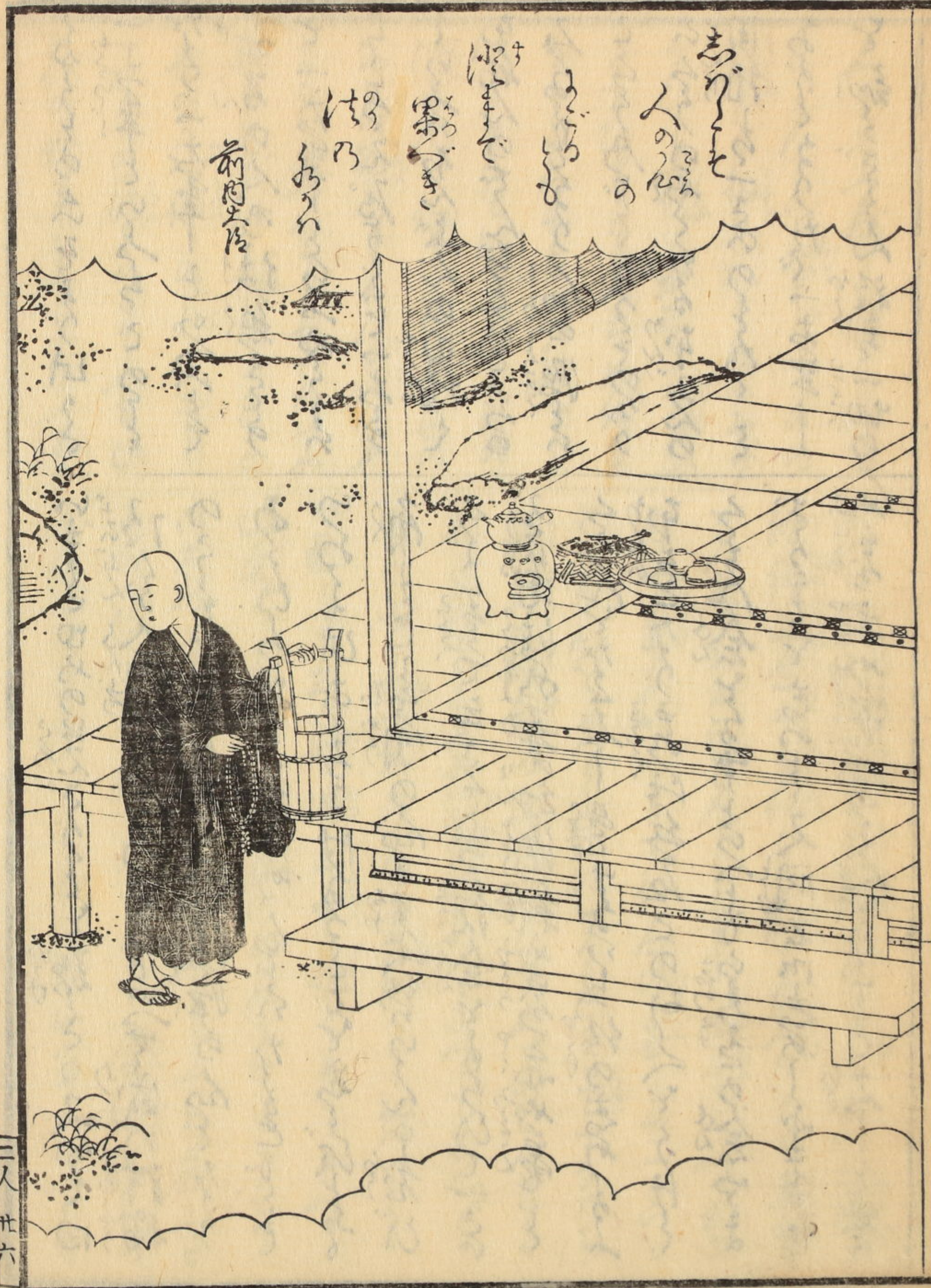




















ほろろと花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
けしきもあはれなる花の散るを思ふもあはれなる月

夢の夜  
重なる  
あはれなる  
けしき  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる

あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月  
あはれなる花の散るを思ふもあはれなる月

あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる  
あはれなる



